

題目：小学校通常学級に在籍する自閉症スペクトラム障害児をもつ母親へのソーシャルサポート促進要因の検討

保健医療学専攻・看護学分野・公衆衛生看護学領域

氏名：藤田 千春

キーワード：ソーシャルサポート、母親、自閉症スペクトラム障害、学童、援助意思

I. 研究の背景と目的

小学校通常学級（以下、通常級）に在籍する自閉症スペクトラム障害児（Autism Spectrum Disorder:以下、ASD 児）は、障害特性の対人相互反応、コミュニケーションに関する障害、常同行動により、学校生活をはじめとする集団行動の適応に困難をきたすことがある。そのため ASD 児の母親は養育の負担が高く、他の障害児の母親より高い育児ストレスを抱えている。ASD 児をもつ母親のストレス軽減にはソーシャルサポートが有用とされている。また、ASD 児の母親の身近にいる学童をもつ母親からのサポートは、ASD 児の母親の育児ストレスの軽減に寄与すると報告されている¹⁾。これらのことより ASD 児をもつ母親が必要とするソーシャルサポートを明らかにし、それらが提供できる支援システムを構築することが求められる。

そこで、本研究の目的は小学校通常級に在籍する ASD 児をもつ母親が認知したソーシャルサポートを明らかにするとともに、ASD 児の母親の身近な第三者である、学童をもつ母親がソーシャルサポートの実施者となり、彼らの援助行動が促進されるような啓発や教育内容の検討に示唆を得ることとした。

II. 方法

本研究は被援助者となる ASD 児をもつ母親と、ソーシャルサポートの実施者となる学童の母親を対象とした、二つの調査で構成した。

研究 1：小学校通常級に在籍する 1～4 年生の ASD 児の母親 19 名に母親が認知しているソーシャルサポートを半構成的面接調査から質的に明らかにした。調査期間は平成 22 年 6 月～23 年 6 月であった。

研究 2：日本全国の小学校 1～4 年生の学童をもつ母親への質問紙調査から、援助意思に関連する要因と ASD 児をもつ母親へのソーシャルサポートの促進要因を量的に明らかにした。学童をもつ母親による ASD 児の母親へのソーシャルサポート生起促進要因を先行文献より抽出し、学童をもつ母親の援助意思に関連する要因を相関係数、t 検定等で検討した。ASD 児の母親へのソーシャルサポートに影響する要因分析には階層的重回帰分析を用いた。調査協力は、全国の公立小学校 1000 校中 113 校（11.3%）2169 名の協力があり調査用紙を送付した。返送は 1269 名（58.5%）得られた。欠損値の多い 49 部を除外し 1220 名（96.6%）を解析対象とした。調査期間は平成 25 年 7 月～12 月であった。

III. 倫理的配慮

国際医療福祉大学大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号、研究 1：09-153、研究 2：12-262）。2 つの調査共に、個人情報保護、調査の自由意志、途中中断の権利を説明した。

IV. 結果及び考察

研究 1 通常級に在籍する ASD 児の母親が認知したソーシャルサポートは【母子の身近な人からの理解】【母子の身近な人からの養育支援】【児の社会生活向上につながる支援】の 3 コアカテゴリ、11 カテゴリが抽出された。また、ASD 児の母親が必要としているが得られないソーシャルサポートは【高機能の ASD 児に対する資源不足】【ASD 児に対する家族や地域からの理解不足】【就学後の療育支援の不足】の 3 コアカテゴリ、7 カテゴリが抽出された。

就学前には受けられていた療育も【就学後の療育支援の不足】により、その補完として同じ障害のある児の母親との交流や情報交換など、母親が必要とする情報共有や共感が可能な出会いの場を設けていくことがソーシャルサポートとして必要であった。また、就学前から周囲の人による理解が乏しいと感じていることに加え、就学後はママ友（達）からも母親自身の対処を理解してもらえていないと思っていた。そのため母親の孤立感が増強しないように、同級の父兄など地域の人々が、ASD 児の特性と母親の思いの理解が深まるよう努めていく必要が明らかとなった。

研究 2 対象者の年齢は平均 38.8 ± 4.5 歳で 30 歳代が 749 名 (61.4%) と半数以上を占めた。また子ども数は平均 2.2 ± 0.8 人であり、対象者の周囲に発達障害児をもつ母親の存在については、子どもの同級生 547 名 (44.8%) が最も多かった。ASD 児の母親に対する学童をもつ母親の援助意思と各要因の平均の比較をみたところ、“母親に協力したい”と「子ども数」、「家族形態」、「就労の有無」に負の有意差がみられ ($p < 0.05$)、「ボランティア経験」、「ボランティアへの関心」と“母親に協力したい”は正の有意差 ($p < 0.05$) がみられた。階層的重回帰分析では重回帰係数 $R=0.633$ 、決定係数 $R^2=0.360$ と 8 要因で ASD 児の母親へのソーシャルサポート 36% を説明できる結果が得られた。さらに ASD 児をもつ母親へのソーシャルサポートの促進要因は ASD 児と家族への肯定的認知、ASD 児の対応を教えられる知識、手助けする役割の認知、ASD 児の母親に協力したいといった援助意思であった。ASD 児の母親の身近にいる学童の母親には、ASD 児と母親の理解を促し、協力したい及び手助けの必要性を認知させることが ASD 児の母親へのソーシャルサポート促進に重要であることが示唆された。

V. 結語

通常級に在籍する ASD 児の母親は、児の就学後に療育の機会が減少したことを感じていたため、幼児期だけでなく継続して学童期も社会資源が受けられるようにすることが母親の安心感につながっていた。また、ASD 児とその母親に対する家族や地域の理解不足が幼児期から継続して生じていたため、ASD 児と母親に対する地域からの理解を促進するような啓発内容を検討していく必要性が考えられた。

ASD 児の母親の身近な第三者である、学童の母親への質問紙調査から、ASD 児の母親へのソーシャルサポートの実施促進につながる要因が明らかとなった。学童をもつ母親が ASD 児の母親へのソーシャルサポートを実施するための促進要因は、ASD 児と家族への肯定的認知、子どもに ASD 児の対応を教える知識、手助けする役割の認知、ASD 児の母親に協力したい及び、手助けの必要性の認知であった。この結果から、学童の母親に対する啓発内容の検討に促進要因を取り入れていく必要性が示唆された。また、参加型の学習スタイルを取り入れることで、学童の母親が手助けする役割を認識でき、より一層、学童の母親が理解しやすくなる可能性が考えられた。

引用文献

- 1) Dunn, M. E., Burbine, T., Bowers, C. A., & Tantleff-Dunn, S. Moderators of stress in parents of children with autism. *Community Mental Health Journal* 2001;37:39-52